

培ってきたノウハウを活かし アプリ開発事業で地域に貢献

東京都豊島区を拠点に、スマホアプリの企画・開発・プロモーションなどをメインに手掛ける『リコスケープ』。東日本大震災の経験を経て、地域に貢献したいとの思いから岩崎社長が立ち上げた会社だ。今後は地域活性化プラットフォームサービスをリリース予定だという同社を竹原慎二氏が訪問。岩崎社長の事業への想いに迫った。



代表取締役 岩崎 亮

—まずは御社の業容から伺います。こちらではスマートフォンのアプリ開発などを手掛けておられるとか。

はい。当社ではソーシャルゲームをメインとしたアプリ開発、Webサイトの企画制作・運営などを行っています。他にも、AIを使った画像コード識別サービスの開発・提供なども行っておりまして、そういった多くの経験を活かして、最近では地域活性化事業にも力を入れているんです。その集大成である地域活性化サービス「recostyle」を今年の9月にリリースする予定です。

—ほう。これはどのようなものなのでしょう。

ネットショップやグルメサイトにゲームを組み入れた新感覚のサービスです。普段皆さんはスマートフォンでお店や商品を検索し、ネットショップやグルメサイトなどを閲覧されると思います。そうした行動に連動して、ゲーム内の自分の街が少しずつ育っていく仕組みです。普段の行動がゲームに反映されるので、楽しみながら地域について知ってもらえらと。

—これは良いですね！ 世界観もかわいいですし、地域のことを知って街を育てていくのはとてもわくわくしますね。

ありがとうございます。特徴のひとつとして、このサービスは掲載するお店さん、ユーザーさん共に無料でご利用いただけるようにしたいと考えているんで

す。お店さんは求人やPR動画を載せるなど、必要な機能は基本無料で使えますし、ユーザーさんは完全無料で情報収集やゲームを楽しんでいただけます。

—無料なのですね。それは嬉しいサービスだと思いますよ。

そこで「お店のことをもっと知ってほしい」「もっとゲームを楽しみたい」という双方のニーズを繋ぎ合わせるのが「リコス」というポイントです。

このポイントはお店さんが事前に購入し、キャンペーンなどに併せてユーザーに配布できる仕組みになっています。例えば、あるお店がキャンペーンなどで女性に向けたサービスをアピールしたい時「HPを見てくれた女性ユーザーにポイント付与」といった使い方ができるんです。他にも「お店の近くを通ったら」や「予約したら」など様々なシーンに合わせて活用可能です。ユーザーさんの貯めたポイントはゲーム内で利用できたり、各お店が出品している商品と交換することができるんです。

—それはおもしろい！ 今までにないやり方ですよ。こうした構想はずっと温めておられたのですか。

元々当社を立ち上げたきっかけが「東日本大震災で大変な地域の方々をIT技術で元気づけたい」との思いからなんです。そのため、当時からこうした構想はずっとありました。しかしユーザーさんは普段グルメサイトなどを毎日は見ない

ですよね。ゲーム要素を加えることで、ゲームがてら情報を見てただけでゲーム用のアイテムやコインが時々貰えるようになる仕組みを思いつきました。ゲームなら毎日ログインしたい人も一定数いますし、SNSなどのターゲット公告のように「ユーザーの属性に合わせた公告」の効果をお店さんにも広く知ってほしいとの思いもあったんです。

—このサービスは町興しや地域活性化に繋がると思いますよ。リリースしたらぜひ私のスマートフォンにも入れてみたいと思います！ どんどん広がってほしいですね。

そう言っていたいただけると嬉しいです。お話ししてみると結構興味を持っていただいているので、まずは千葉県を集中して作っていきたいです。成功事例があれば分かりやすいと思うので、今お話がある沖縄や四国でも展開していきたいです。元々ネットショップサイトがありますから沖縄で販売している物を千葉の人がリコスで商品を交換することもできる。全国展開だけでなく海外展開も見据えていきたいです。地元愛があって地元を盛り上げたい、という地域の力になるので、これが順調にいけば今後はスタッフのやりたい事業をどんどん進めていきたいなと思っています。

(2022年6月取材)



竹原 慎二

『リコスケープ』さんのこれまでの経験を活かしたプラットフォーム「recostyle」はとても画期的で、すぐにでも大人気になるサービスだと感じましたよ！ お話を伺う中で、地域貢献への思いが強い社長だからこそ、こうした素晴らしいものが生み出せるのだなと思いましたね！



株式会社 リコスケープ

東京都豊島区南池袋 3-9-2 池袋ハイツ 301
URL : <https://www.recoscape.co.jp/>